

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	東京都
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	大島町立元町小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	1	1	1	1	1	2	8	22
児童数	22	26	25	19	20	34	5	151	

研究の概要

1. 研究主題

学力向上プランの実践～気づく・考える・深める子どもの育成～
-------------------------------

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年・算数</li> </ul> <p>事前に行った学力テストの結果から、学年の到達目標に十分に達していない児童が多かったため。</p>
---

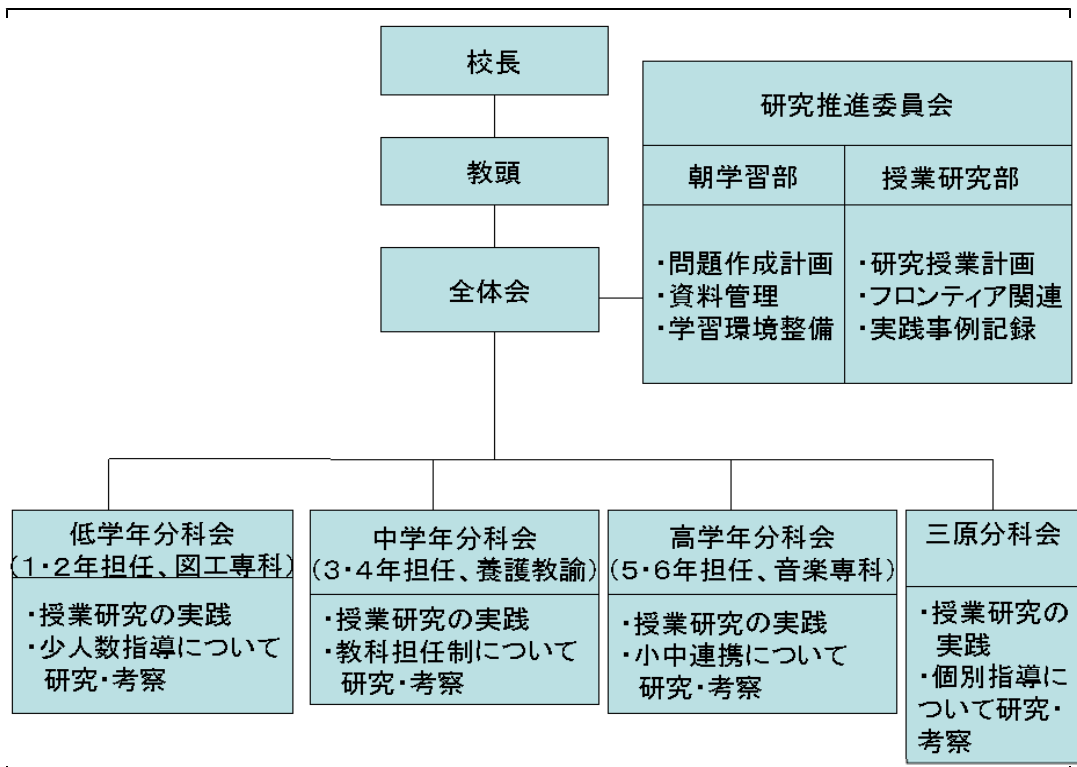
(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p><b>テーマ</b>          学力向上プランの実践          ・全校一斉朝学習、少人数指導、教科担任制、小中連携の4つを柱とした学力向上プランを立ち上げ、その実践を通して確かな学力の向上を目指す。</p> <p><b>研究の見通し</b>          (仮説)個に応じた指導方法や指導体制を効果的・計画的に行い、工夫改善すれば、一人一人の確かな学力が向上するであろう。</p> <p><b>研究の内容・方法</b>          ・確かな学力向上のために、今年度は、          指導方法や指導体制の工夫改善          発展的な学習や補充的な学習の教材開発          の2点に重点的に取り組む。          その具体的な方法として</p> <p><b>全校一斉朝学習</b>          朝15分間のモジュールの時間を設定して、全児童が体育館に集まり、算数と国語の小テストを行う。採点、再テスト、個別指導等の手だてを経て、基礎学力の定着、向上を図る。          昨年度に行った学力テストの結果を検討・分析し、算数については表現・処理、国語においては言語に関する知識・理解・技能を中心に問題を作成する。問題は全てオリジナルとし、以下の手順で作成する。          一教科・一学年40ステップとし、系統に沿った学習項目を作成          系統別学習ステップに沿った、オリジナル問題の作成(全教職員で分担)          問題の妥当性、解答についてチェックし、印刷</p> <p><b>少人数指導</b>          算数における少人数指導を行う。配置された算数科講師が全学年の算数の授業に加わり、単元や学習内容、習熟度に応じて、さまざまな学習形態で授業を行う。          また、各分科会において少人数指導についての提案授業を行い、その効果的なあり方について検討する。</p>
--------	--

	<p><b>教科担任制</b> 教務で年度当初に時間割を組み、5・6年生の国語は5年担任が授業を担当し、算数は6年担任が授業を担当する。3・4年生は2学期から同様に教科担任制を導入する。</p> <p><b>小中連携</b> 高学年を中心に中学と連絡を密にし、情報交換・授業参観及び協議会への参加を積極的に行う。</p>
--	--

平成 16 年度	<p><b>テーマ</b> 学力向上プランの実践 ・昨年度の実践を受け、その効果について検証し、工夫改善を図る。 ・学習の評価を生かした指導のあり方について研究する。</p> <p><b>研究の見通し</b> (仮説)個に応じた指導方法や指導体制を効果的・計画的に行い、工夫改善すれば、一人一人の確かな学力が向上するであろう。</p> <p><b>研究の内容・方法</b> 指導方法や指導体制の工夫改善 ・学力テストの結果を考慮し、全校一斉朝学習のシステム全体を見直し、発展的な学習や補足的な学習それぞれに対応できるものとする。 ・少人数指導について、提案授業を行い、その効果的なあり方について検討するとともに類型別の基本的なパターンを作成し、システム化を図る。 ・発展的な学習や補足的な学習の教材開発 ・全校一斉朝学習で作成した問題を整理し、教科学習に活用する。</p> <p><b>学習の評価を生かした指導</b> ・全校一斉朝学習の個人データを、教科学習に生かす手だてについて検討する。 ・少人数指導や教科担任制における評価のあり方について検討する。</p>
----------------	--

(3) 研究推進体制



全校一斉朝学習は、学習ステップ作りから問題作成、印刷、全体指導、採点まで、全教職員で分担し行うこととする。  
年間を通じて、講師を招聘し、指導助言を仰ぎながら研究を進めることとする。

## 平成15年度の研究の成果及び今後の課題

### 1. 研究の成果

全校一斉朝学習について

- ・児童は学年を問わず、同じ問題に取り組むことで、既習していても定着していない部分に気づき、復習することができた。またその一方で未習でも取り組める問題に意欲的に取り組む児童も出始めた。
- ・教職員全体で、問題作りや採点に取り組むことで、研究を全体で進め、「全教職員で全児童を見る」という意識ができ、教員同士の情報交換も密になった。
- ・保護者への説明、地域との協力（敬老会と朝学習用座卓を作成）などを通じて保護者、地域の学校への関心が高まり、支援をしようという姿勢につながった。

少人数指導について

- ・全学級、算数の時間は担任と講師で授業を行うため、T・Tや少人数指導など授業システムの改善を図り、個に応じた指導を工夫できるようになった。
- ・各部会ごとに提案授業を行うことで、少人数指導の効果的なあり方について多様に検討し、それぞれの授業改善に生かすことができた。

教科担任制について

- ・教師の専門性を生かし授業を行うことができ、さらに系統性を捉えやすいために教材研究が深まった。
- ・児童は多くの教師から授業を受けるため、多面的に評価され、児童理解を深めることができた。

### 2. 今後の課題

- ・基礎的・基本的な技能や知識の定着をねらっている朝学習と毎日の算数の授業での学習について、それらの関連をいかに図っていくか。
- ・どのような単元・場面でT・Tや少人数指導を行うとより効果的か。
- ・どのような形で小中連携を図っていくと、効果的に継続した指導内容が行われるか
- ・学習の評価を生かした指導のあり方をどのように改善していくか。

## 学力等把握のための学校としての取組

朝学習がんばりカード  
既習事項の定着度、つまづきの箇所が児童・教員ともに一目でわかるようにステップごとにカードに記入し、個人カルテとする。  
また1回15分の朝学習を15回で一単位とし、データ入力し、分析。

学力テスト  
6月に2年～6年で実施。全国調査の結果と比較し、実態を把握する。

児童数検・算数検定の任意参加  
財団法人 日本数学検定協会の児童数検・算数検定の会場として登録し、本校児童及び地域に参加を呼びかける（任意）。今年度は2月14日に本校にて実施。

## フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・平成 16 年度 研究発表会開催予定
- ・本校 HP に学力向上フロンティアスクールとしての取り組みのページを追加し、本校の研究の概略とその成果を知らせる。
- ・本校での校内研究全体会の日程を島内教育機関に知らせ、研究授業参観及び協議会への参加を随時受け入れている。
- ・全校一斉朝学習は随時参観を受けいる。
- ・今年度の研究紀要を作成し、今年度末配布予定。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校     14年度からの継続校
- 【学校規模】             6学級以下                     7～12学級  
                           13～18学級                 19～24学級  
                           25学級以上
- 【指導体制】             少人数指導             T・Tによる指導  
                           一部教科担任制     その他
- 【研究教科】             国語                     社会                     算数                     理科  
                           生活                     音楽                     図画工作             家庭  
                           体育                     その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無